

『塾と教育』創刊1周年記念 新春特別セミナー
 テーマ/2014年の学習塾業界

教育再生実行会議の目的は、 「世界で信頼される日本人をつくること」

成基コミュニティグループ 代表兼最高経営責任者(CEO)
 教育再生実行会議 委員
 佐々木 喜一 氏

教育再生実行会議の委員として活動して1年ですが、個人的にはすでに10年が過ぎたような感覚です。その活動に伴う移動だけで地球一周半の距離で身体もボロボロになりました。特に昨年8月から10月の間は大学入試改革について話し合いましたが、その間は夜もあまり眠りませんでした。会議だけでは結論が出ず、結局最後は政治主導で座長一任に、という形になりました。この1年なぜそこまで頑張れたのか。2012年の大晦日、下村大臣からお電話をいただき、委員として協力してくれないかとの依頼を受けました。その少し前、2012年10月に弊社では創立50周年記念の式典を挙行しました。その式典はこれまで50年の「感謝」と、今後弊社が100年以上存続し、12領域の日本一を目指す会社になるという「決意」を宣言、そのお披露目も兼ねた式典でした。その式典に当時野党であった自民党の議員として下村先生もお越しになられており、何かインスピレーションを感じられたのだと思います。そのこともあっての依頼だとおっしゃっていました。

「自分をダメな人間」だと思ってる、自己肯定感が少ないという事実で、自分を愛し、国を愛する心が世界を愛することにつながると、そういう思いから教育基本法を改正したとおっしゃっていました。そして今回の教育再生実行会議は、世界で信頼、尊敬される日本人をつくらせていくのが目的だと言われ、それを聞いて、ああこれなら是非、頑張ろうと決心しました。アベノミクスの3本の矢の3本目は経済の成長戦略ですが、誰が成長させるのか、結局は人間です。これからの若い人材に頑張ってもらおうということ。安全安心という風潮の中で、リスクをとらない、リーダーシップと対極にある今の日本人のあり方、皆が動くんだたらやろうかとか、その部分から変えなければなりません。人を鍛えて、突き抜けて、己のためではなく、次世代のために人材をつくる。それが結局、世界から信頼、尊敬される日本人なんだと思います。この目的から教育再生実行会議はスタートしました。

昭和の戦後の教育の大転換と匹敵する大きな改革だと言えます。一番大きな公的な部分は教育委員会の抜本改革、首長が教育長の任免、罷免などの直接の人事権を持ち、責任を持つということ。大津市でのいじめ問題。亡くなった生徒の親が損害賠償で訴えた相手は津市長です。中学の校長や教育長ではない。しかも校長や教育長の人事権は滋賀県教委にある。つまり責任と権限を分散させている。安定性、中立性のためとはいいますが、無責任な体制といえるのです。その他法案がいくつありますが、それでは我々ほどのような方向に向かっているのか。教育再生実行会議の第3次提言と第4次提言を是非、10回は読んでください。なぜこのような大学入試改革を実施しようとするのか、その背景を汲み取っていただけたらと思います。ポイントとなるのは、1つ目はグローバル化、2つ目は人物本位、3つ目は多様性です。例えば全受験生にTOEFLのiBTを受けさせるのかという点、そんなことはありません。またある委員からは、高校生は達成度テストの基礎を全員に受験させるべきだと、それを高校卒業資格に使うべきだと言っています。しかし多様性という観点からみれば、そういう



うことすら困難な、例えば学習障害児の方や発達障害の方もおられます。従って強制ではなく、それぞれの存在価値を認めていこうという考えなのです。次に私たちと関わりがありそうな、公設民営化についてです。事務次官に聞いたところでは、次の2つのスクールをテーマにしているようでした。1つは、民間の力を使ってでも国際バカロレア（IB）認定校を200校に増やしていきたいということ、また現在の不登校や障害児対象のフリースクールと言っているスクールにも光を当てていきたいという、この2つだそうです。日本人一人ひとりが幸せになれるような、多様な教育を具現化しなければいけないというのが、この公設民営化の趣旨です。

人当たりのGDPで世界一になりました。つまり人間力の付加価値が違うということ。さて、それでは民間教育、塾はどう生き残っていくのか、どう世の中の役に立ち続けていくのか。グローバルという面では、脳科学の研究でも「つ」のつく1歳から9歳までが臨界期で、言語に関して爆発的な吸収を示します。従って幼児・小学校低学年に日本語も学びつつ、英語等の言語教育を施すべきだと思います。そこに民間教育の余地が充分あると思います。20年後には昔は学習塾だったけど今は英語塾です、ただし他教科も教えています、という塾が当たり前になっているかもしれない。また人物本位の部分ですが、何のために勉強するのか、何のために働くのか、何のために生きるのかを考える志教育、哲学が大切です。また教えるスタイルはICTも普及しているの、双方向のアクティブラーニングと言われている授業がふさわしい。一方的に教えるだけだったら映像授業で充分できます。双方向の授業をし、自立性、主体性やコミュニケーションスキル等々、これから社会に出て必要な力を、国語や数学などの一般教科を通して生徒にどれだけ身につけさせるかが、これから民間教育の現場でも問われていくのではないのでしょうか。